

第八回企業活性化研究分科会・議事録

<第七回 2008年2月24日(日) 時間：13：30～16：30 於：専修大学(神田校舎)>

1. 参加者：山本、井端、大野、古山、渡邊、大柳、小島、菅原

2. テーマ：企業活性化に関する研究

3. 発表内容

テーマ：『企業の継続性の観点からのM&A企業の企業評価』

- ・報告者：古山徹
- ・配布資料：レジュメ5枚
- ・報告内容の要旨

企業の継続性について考える場合、倒産や破綻という問題はもちろんのこと、企業の買収という事象も継続性を断つ重要な問題点である。しかし、買収という事象を継続企業の前提に関する注記との関連で考えることは難しい。そこで、買収される企業の特性を財務比率を用いて示すことを目的としている。

具体的な手法は次のとおりである。サンプルは、2006年以降発生した98件の買収事例における買収企業82社と被買収企業98社の計180社を用いる。特性を確認する方法としては、サンプル企業についてNEEDSの企業財務データに収録されている184指標の平均値、標準偏差を算出し、そのうち変動係数が小さい指標を抽出するという分析を行う。

分析結果として、被買収企業の特性は、使用総資本回転率、売上高総利益率等の収益性をあらわす指標が高いという特徴がみられる。その他にも、流動比率は高いが、売上債権、買入債務の回転日数が短い、また配当性向、自己資本配当率が低いという特徴もみられた。このような特性を持つ企業が、被買収企業になりやすいといえるだろう。

4. その他

次回の日程

- ・3月29日(土) 専修大学神田校舎 764教室
- ・会費5000円を徴収いたします。

(文責：菅原智久)